

「なくそう！世界の児童労働」キャンペーンを実施



6月12日は国際労働機関（ILO）が定めた「児童労働反対世界デー」。この日を中心に、5月15日～6月30日の期間で「なくそう！世界の児童労働」キャンペーンを行いました。児童労働ネットワーク（CL-Net）が中心となり様々な団体と協力して、各地で15のイベントを開催。6月8日～12日にはアムネスティ・インターナショナル日本の招きで、インドの児童労働活動家カイラシュ・サティヤティさんと、児童労働者としての経験を持つ15歳のスマン・クマール・マハト君が来日し、6つのイベントに出席しました。延べ7,000人近くがイベントに参加し、関心を持つ人が増えていることを実感した1ヵ月半となりました。

映画「僕たちも学びたい～貧困と闘う子ども労働者たち」上映会&トーク

キャンペーンのメインイベントとして、「児童労働反対世界デー」前日の6月11日（日）に、CL-Net、ILO駐日事務所、NGO - 労組国際協働フォーラムの共催で、国連大学ビルのウ・タント国際会議場にて映画上映会を行いました。映画「僕たちも学びたい～貧困と闘う子ども労働者たち（原題：Stolen Childhoods）」の上映に加え、カイラシュさんとスマン君からのスピーチと質疑応答を行いました。会場は学生や社会人、外国の方や親子連れなどで満席。スタッフを含め約420名の参加となり、立ち見が出るほどの盛況でした。



会場は満席。立ち見も出た

この映画には、世界8カ国における児童労働の現状の他、NGOの活動家やアメリカ上院議員、2004年のノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイさんの発言など含まれており、カイラシュさんも登場します。インドの採石場で強制的に働かされていた子どもの過酷な環境、先進国であるアメリカでも移民の多くの子どもが労働に関わっていることなどが描かれています。

カイラシュさんは世界各地の児童労働の現状を語った上で「まず、あなたのできることから始めて下さい。大切な人や友だちに伝えてください。グローバルな問題はひとつの国だけでは解決できません。多くの人と一緒に取組んでいきたいと願っています」と力強いメッセージを発信しました。スマン君も、「おとなたちは貧困を言い訳にしているのではないか」と語り、大勢の前で堂々としたスピーチをしました。参加者からは「当事者のメッセージは、日本のような児童労働が目に見えない国に住む人々に変化を与える一番の原動力になります」などの感想があり、生の声を聞いたり映像を見たりすることの絶大な効果を感じました。

児童労働反対世界デー・ウォーク



上映会の後には、街頭で人々に訴える「児童労働反対世界デー・ウォーク」を行いました。あいにくの雨天にも関わらず、昨年を超える約250名が集まりました。青山通り沿いのこどもの城前からスタートし、休日を楽しむ人々で賑わう表参道、明治通りを抜けて、渋谷駅近くの宮下公園まで歩きました。先頭にはフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの高校生が、この日のために作った横断幕を掲げて街の人々にアピールしました。手には世界デーのシンボルである風車やブラカードを持ちながら、「ストップ、ストップ児童労働！」の掛け声に、「世界の子どもに教育を！」とみんなで応えました。自らもグローバルマーチの代表として、インド国内や世界各地でウォークを行ってきたカイラシュさんも、慣れない日本語で「世界の子どもはみんな一緒だ！」と呼びかけました。サンバ調のテーマ曲に合わせ、人々の目に留まるように、明るく楽しくメッセージを伝えました。



雨は途中から小降りになり一度止んだ後、解散場所に着いた頃にはまた降り始めました。カイラシュさんによると「インドでは、みんなで何かをやり遂げた時に雨が降るのは、神様がそれを認めてくれた証拠」とのこと。それを聞いた参加者のみなさんの表情には達成感が表れていました。「みんなと一体になれてすごくよかった。新たな原点になりました。」「断固勝利で児童労働と戦っていきます！世界の平和とすべての子どもたちの幸福のために。」との声を参加者の方からいただきました。昨年同様、同日に大阪でもウォークを行いました。来年は、この輪がもっと広まっていくことを願っています。

このキャンペーンは、CL-Net 会員団体および賛同団体、そして国際機関である ILO 駐日事務所と連携を取りながら進めました。以下に各団体が行った活動について報告します。

キャンペーンイベント一覧

日程	イベント名(会場)	主催	参加者
5/15(月)	グローバルレポート報告会(東京・渋谷)	ILO 駐日事務所	20 人
5/15(月)~6/16(金)	ILO 児童労働パネル写真展(東京・渋谷)	ILO 駐日事務所	1,500 人
5/21(日)	2006 児童労働撲滅キャンペーン in 大阪(大阪)	NTT 労働組合	2,000 人
5/23(火)	世界の児童労働テレビ会議(東京・千代田)	ILO 駐日事務所	20 人
5/27(土)	第 11 回 CL-Net 学習会「児童労働をなくすために～フェアトレードの取り組み」(東京・早稲田)	CL-Net	30 人
6/1(水)~30(金)	OLAL オンライン写真展「インドの子どもが写しだす、働く子どもたち」	「働く子どもの『遺産と伝説』キャンペーン」日本事務局	630 アクセス
6/4(日)	2006 児童労働撲滅キャンペーン in 横浜(横浜)	NTT 労働組合	2,000 人
6/8(木)	シンポジウム「経済のグローバル化と児童労働と企業の CSR ~ 日本企業と NGO 間の協働を模索する ~」(東京・池袋)	ACE、アムネスティ日本、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科	100 人
6/9(金)	児童労働からの解放運動についてお聞きする会(東京・九段)	三輪田学園中学・高等学校、アムネスティ日本	60 人
6/10(土)	児童労働シンポジウム「働く子どもたちの未来に向けて」(東京・新宿)	アムネスティ日本	80 人
6/11(日)	「僕たちも学びたい～貧困と闘う子ども労働者たち」上映会(東京・渋谷)	CL-Net、ILO 駐日事務所、NGO - 労組国際協働フォーラム	420 人
6/11(日)	児童労働反対世界デモウォーク(東京・表参道～渋谷)	CL-Net	250 人
6/11(日)	児童労働をなくそう！関西ウォーク 2006(大阪・御堂筋)	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン、国際子ども権利センター	24 人
6/12(月)	児童労働グローバルレポート報告会(東京・渋谷)	ILO 駐日事務所	50 人
6/12(月)	中学生との対話集会(東京・武蔵野)	武蔵野第一中学校、アムネスティ日本	120 人
6/24(土)	第 3 回チャリティフットサル大会～世界の子どものサポーターになるう！(埼玉・さいたま市)	ACE	240 人

アムネスティ・インターナショナル日本の取り組み

アムネスティ・インターナショナル日本は、カイラシュさんとスマン君を招いて「児童労働反対キャンペーン」を展開しました。2 人のゲストとともにシンポジウムを開催したほか、2 つの学校で対話集会を行いました。

「働く子どもたちの未来に向けて」と題したシンポジウムには、約 80 名の学生や一般の方が集まりました。カイラシュさんの基調講演のほか、前 ILO 駐日代表/CL-Net 代表の堀内光子さんによる発表と、一橋大学教授の黒崎卓さんによるインドでのフィールド研究に関する発表が行われました。パネル・ディスカッションでは「児童労働の決定にカーストは影響していないのか」など、中身の濃い質問がされ、参加者の方からは「現場の生の声が聞けて勉強になりました」との声がありました。

学校を訪問しての集会では、2 人のゲストと生徒たちが直接交流することができました。三輪田学園では、カイラシュさんの団体に救出されたスマン君が、クリントン大統領との会見で児童労働撲滅のための資金を 3 倍にするようお願いし、実現した話をし、生徒たちの関心を引きつけました。武蔵野第一中では、カイラシュさんとスマン君は、生徒と一緒に昼食をとり、昼休みはバドミントンなどを楽しみました。午後には対話集会が行われ、生徒は「自分と同じ年齢の子の虐待にショックを受けた。自分が出来ることは何か考えたい」と話していました。日本の中学生に何が出来るかという質問に対し、カイラシュさんは交流していくことの重要性を強調しました。



武蔵野一中で教壇に立つカイラシュさん

ACE の取り組み

ACE は講演シンポジウムとチャリティフットサル大会の 2 つを行いました。シンポジウムは「経済のグローバル化と児童労働と企業の CSR ~ 日本企業と NGO 間の協働を模索する ~」と題し、立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科、アムネスティ日本との共催で開催しました。カイラシュさんの基調講演の後、スマン君が施設で生活する仲間を例にあげ、インドの産業で見られる児童労働の現状を報告しました。また、日本の小売業として初めて SA8000 (労働・人権に関する国際規格) を取得し、取引行動規範を定めて児童労働防止に取り組んでいる、イオン株式会社からの事例発表を行いました。グローバル化により児童労働や途上国での労働搾取が指摘される中で、企業が果たせる役割や社会的責任について参加者とともに考えました。当日は、企業関係者や学生、NGO 関係者など約 100 人が参加しました。この日の様子は、翌朝の NHK の首都圏ニュースでも報道されました。



大会に参加した子どもたち

6月24日には、第3回目となるACEチャリティフットサル大会を開催しました。サッカーボールが児童労働によって作られていたことを、サッカーを楽しむ人たちに知ってもらいたいということから、2002年から続けて開催しているものです。また、カイラシュさん率いる現地のNGOとの共同で実施する「子どもにやさしい村」プロジェクトの資金を集めることも目的としました。

試合にはフェアトレードのフットサルボールを使用し、真にフェアな大会を目指しました。6リーグ24チームによる予選リーグの後、勝ち抜いた8チームによる決勝トーナメントを行いました。横浜F・マリノスや浦和レッズなどJリーグ選手のサイン入りグッズのチャリティオークションや、児童労働に関するクイズ大会も行いました。天候にも

恵まれ、参加者の方からは「楽しい上に、やっていることがインドの子どもたちにつながるなんて、とても素敵です」「クイズでみんなに知ってもらおう仕掛けもよかった」という声をいただき、問題を知り、行動するきっかけの場とすることができました。

ILO 駐日事務所の取り組み

ILO 駐日事務所は、児童労働写真パネル展、世界の児童労働テレビ会議、児童労働反対世界デー・グローバルレポート発表セミナーを行いました。

キャンペーンの開始日の5月16日から始まった児童労働写真パネル展は、2002年から毎年行われているもので、ILOのパネルに加え、NGOから提供されたパネルを含む、農業や製造業、サービス業、鉱業などにおける児童労働の現状に関する写真が展示されました。最新の児童労働のビデオも上映され、1ヵ月間に学生や高齢者を含む約1,500人が足を運びました。

5月23日のテレビ会議では、メディアや児童労働の取り組みを行っている関係者を対象に、テレビ電話回線を使ってILO本部担当者からグローバル・レポートの報告がありました。2004年までの過去4年間に、児童労働者が2億4600万人から2億1800万人に減少した背景には、中南米で大きな進展が見られたこと、貧困削減や教育と結びついた取り組みが功を奏していること、正しい政策の選択や政治的意思、政策の整合性が重要である点が強調されました。

6月12日のグローバル・レポート発表セミナーには、学生、研究者、記者、労働組合・企業関係者など多方面から約50人が参加しました。ILO事務局長によるビデオメッセージ、児童労働に関するビデオ上映、ILO駐日代表によるグローバル・レポートの概要説明が行われました。質疑応答では「ラテンアメリカでは減少しているが、なぜアジアでは減らないのか」「先進国である日本として何ができるか」「児童労働に関わる製品についてキャンペーンを行う場合、どのような方法が有効か」「国連機関同士はどのように連携できるか」など、質の高い質問が多く、関心の高さが伺えました。



ジュネーブのILO本部とのテレビ会議

NTT 労働組合の取り組み

NTT労働組合は、4月1日から6月30日の期間で「2006 児童労働撲滅キャンペーン」を展開しました。その一環として、5月21日に大阪で、6月4日に横浜でイベントを開催しました。組合員や一般の方などが訪れ、それぞれ約2,000人、合わせて約4,000人の大勢の人が集まりました。両イベントでは、ILO駐日事務所による基調講演、組合主催のタイのスタディツアーに参加したメンバーからの報告を行いました。NGOによるブース展示では、活動紹介のほか、児童労働に関わるクイズやサッカーボール縫い体験を通じて、理解を深められる場も設けました。

大阪では、児童労働撲滅に賛同する「タケカワユキヒデ〜T'sカンパニー〜」のライブのほか、FM局の外国人DJ、NTT労組とNGOからの代表者によるパネル・ディスカッションなども行いました。また、天王寺・なんば駅前では街頭活動も行い、道行く人たちに児童労働問題を訴えました。通りがかりの人が立ち止まって演説に耳を傾ける様子も見られました。

横浜では、児童労働を題材にしたコントやパフォーマンスをステージで行うなど、視覚に訴える企画もありました。また、トリノオリンピック金メダリストの荒川静香さん、横浜ベイスターズ、横浜F・マリノスなどから提供を受けたサイン入りグッズが当たるスタンプラリーの実施や抽選会を行い、参加を促す工夫をしていました。



NTT 労組もスタディツアーの写真の展示や募金活動を行った



NGOのブースでサッカーボール縫いを体験する子ども

「働く子どもの『遺産と伝説』キャンペーン」(OLAL)日本事務局の取り組み

OLALでは6月1日からの1ヵ月間、インターネットのサイト上で、オンライン写真展「インドの子どもが写しだす、働く子どもたち」を開催しました。OLALはインドで、子ども自身がカメラを持ち、児童労働やストリートチルドレンなどの状況を子どもたちの目線で写すことにより、社会に子どもたちの現状を伝える活動をしています。今回の写真展では、これまでインドの子どもたちが撮影した6,000枚を超える写真の中から、最もインパクトのある写真を33点と、OLALの活動の様子を伝える写真を6点掲載しました。今回のキャンペーンのポストカードにも13歳の少年が撮影した写真が使われ、各イベントで配布されました。

キャンペーンの広がり

キャンペーンの活動を行う中で、当初計画されていなかった活動も実施されました。賛同団体となったグッドネーブーズ・ジャパンでは、京阪百貨店守口店にて2日間、「アジアの子どもたちを支援する共同写真展」を開催しました。また、桃山学院大学では、6月26日に学生たちの有志による映画上映会が行われました。これは、6月11日の国連大学での上映会の案内を見た先生から、「東京での上映会に学生は参加でき

ないので、大学でもぜひ上映会を行いたい！」との問合せを受けて実現したものです。40人程の学生が集まり、映画を上映した後、CL-Net 団体会員のフリー・ザ・チルドレンの事務局長、中島早苗さんが講師として、主にインドの児童労働の現状について紹介しました。さらに大阪では、7月22日にフリー・ザ・チルドレンと国際子ども権利センターの主催により、一般向けの映画上映会も開催されました。このような形で、関東だけでなく、関西にもキャンペーンに広がったことはひとつの成果です。

テレビや新聞でキャンペーン関連の報道が15件あったほか、インターネットのニュースでも広く取り上げられました。ニュースやウェブサイトを見た人からの問い合わせがあるなど、報道による市民啓発の効果も感じることができました(詳細は別紙のメディア掲載資料をご参照ください)。

これらの成果が得られたのは、参加する団体が連携して一定期間継続して活動を行ったことや、それぞれが持つ媒体を使って積極的に広報活動を行ったことが功を奏したといえます。まさにネットワークの強みが発揮された結果となりました。今後も、児童労働のない社会を実現するために、さらに大きな協力の輪を広げていきたいと思っております。キャンペーンにご参加、ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました!



児童労働ネットワーク会員団体

- (社)アムネスティ・インターナショナル日本
- (特活)ACE
- 国際子ども権利センター
- 国際食品労連日本加盟労組連絡協議会(IUF-JCC)
- 国際労働財団(JILAF)
- Save Children Network
- 働く子どもの「遺産と伝説」キャンペーン(OLAL)日本事務局
- フェアトレード・リソースセンター
- (特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
- フード連合
- 日本労働組合総連合会(連合)
- UI ゼンセン同盟

キャンペーン賛同団体

- アジアの女性と子どもネットワーク
- (特活)ワールド・ビジョン・ジャパン
- (特活)ラオスのこども
- (社)シャンティ国際ボランティア会
- グローバル・ヴィレッジ
- (特活)グッドネーブーズジャパン
- NTT 労働組合
- (特活)エファジャパン
- Development Action for Women Network (DAWN)
- 教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- (特活)アフリカ日本協議会(AJF)
- NPO 法人 かものはしプロジェクト
- ECPAT/ストップ子ども買春の会

児童労働ネットワーク(CL-Net)は会員を募集中です!!

会員になると、会員のメーリングリストや学習会、運営会(オブザーバー参加)に参加することができます。

会員になるには?

会費を郵便振替にてお振込みください。事務局からご連絡させていただきます。

郵便振替口座: 00160-8-685281

口座名義: 児童労働ネットワーク

会員の種別と会費(会費期限は毎年9月~8月)

正会員 (総会での議決権あり)	団体	一口5000円(一口以上)
	個人	一口5000円(一口以上)
協力会員 (総会での議決権なし)	団体	一口1000円(一口以上)
	個人	一口1000円(一口以上)

(振替用紙の通信欄には、必ず会員の種別と口数を記入してください)

この短信は児童労働ネットワークのイベントにご参加いただいたみなさま、またネットワークの会員団体とつながりのある皆様にお送りしています。送付先の変更や送付不用の場合は事務局までご連絡ください。

児童労働ネットワーク(CL-Net)事務局 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6丸幸ビル3F (特活)ACE内
TEL/FAX 03-3835-7555 E-mail: cl-net@acejapan.org URL: http://www.acejapan.org/cl-net/